

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 8 月 13 日 (2020.8.13)

【公開番号】特開 2020-92928 (P2020-92928A)
 【公開日】令和 2 年 6 月 18 日 (2020.6.18)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-024
 【出願番号】特願 2018-234048 (P2018-234048)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 3 日 (2020.7.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
 所定条件が成立したことに基づいて、対象の可変表示が前記有利状態に制御される期待
 度を示唆する示唆演出を実行することを決定可能な決定手段と、

前記決定手段の決定結果に基づいて、前記対象の可変表示より前に実行される可変表示
 から該対象の可変表示に亘って所定発光手段を発光させる前記示唆演出を実行する示唆演
 出実行手段と、

前記所定発光手段の発光態様を決定する発光態様決定手段と、を備え、

前記示唆演出実行手段は、前記示唆演出を実行しているときに、

前記対象の可変表示よりも前に実行される可変表示において、前記所定発光手段が発
 光している場合と発光していない場合とのいずれの場合であっても、前記所定発光手段を発
 光させる処理を行い、

前記対象の可変表示において、前記対象の可変表示よりも前に実行される可変表示に
 おいて前記所定発光手段が発光している場合と発光していない場合とのいずれの場合あっ
 ても、前記所定発光手段を発光させる処理を行い、

複数の前記所定発光手段は、前記発光態様決定手段が決定した発光態様に応じて発光す
 る順番が異なる

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

(A) 上記目的を達成するため、本発明に係る遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

所定条件が成立したことに基づいて、対象の可変表示が前記有利状態に制御される期待
 度を示唆する示唆演出を実行することを決定可能な決定手段と、

前記決定手段の決定結果に基づいて、前記対象の可変表示より前に実行される可変表示から該対象の可変表示に亘って所定発光手段を発光させる前記示唆演出を実行する示唆演出実行手段と、

前記所定発光手段の発光態様を決定する発光態様決定手段と、を備え、

前記示唆演出実行手段は、前記示唆演出を実行しているときに、

前記対象の可変表示よりも前に実行される可変表示において、前記所定発光手段が発光している場合と発光していない場合とのいずれの場合であっても、前記所定発光手段を発光させる処理を行い、

前記対象の可変表示において、前記対象の可変表示よりも前に実行される可変表示において前記所定発光手段が発光している場合と発光していない場合とのいずれの場合であっても、前記所定発光手段を発光させる処理を行い、

複数の前記所定発光手段は、前記発光態様決定手段が決定した発光態様に応じて発光する順番が異なる

ことを特徴とする。

(1) 上記目的を達成するため、他の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機 1 など）であって、

所定条件が成立したことに基づいて、対象の可変表示が前記有利状態に制御される期待度を示唆する示唆演出を実行するか否かを決定する決定手段（例えばステップ 0 8 5 A K S 0 0 5 の処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）と、

前記決定手段の決定結果に基づいて、前記対象の可変表示より前に実行される可変表示から該対象の可変表示に亘って所定発光手段を発光させる前記示唆演出を実行する示唆演出実行手段（例えばランプ演出を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）と、を備え、

前記示唆演出実行手段は、

前記示唆演出を実行しているときに、

前記対象の可変表示よりも前に実行される可変表示において、前記所定発光手段が発光しているか否かに関わらず、前記所定発光手段を発光させる処理を行い（例えばステップ 0 8 5 A K S 0 2 1 の処理を実行するなど）、

前記対象の可変表示において、前記対象の可変表示よりも前に実行される可変表示において前記所定発光手段が発光しているか否かに関わらず、前記所定発光手段を発光させる処理を行う（例えばステップ 0 8 5 A K S 0 2 1 の処理を実行するなど）、

ことを特徴とする。